

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 25 年度 第 3 号 2014 年 1 月 24 日
北海道立総合研究機構 栽培水産試験場 調査研究部
TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成 26 年 1 月 14～17 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500mの海域

- ・ 魚群反応は胆振沖（白老から苫小牧）が中心。
- ・ 調査海域の平均反応量は、昨年同期を下回った。
- ・ 海底に張り付いた魚群反応は水深 100～200m前後が中心。ただし、胆振沖では水深 50m付近から魚群反応がみられた。
- ・ 漁獲物の体長（尾叉長）は、40～45cmが主体であった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、主に白老から苫小牧沖にかけて分布していました。その中でも、胆振海域の 176、179、186 海区に強い反応がみられました（図 1， 2）。
2. 調査海域の平均反応量は、昨年同期を下回り、1 月の調査を開始した 2005 年以降では、一部のラインでしか調査ができなかった 2011 年を除くと、2006 年に次いで低い値となりました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 50m～500mの広い範囲で観察されましたが、海底に張り付いた反応は水深 100～200mが中心となっており、それより深い水深では海底から浮いた反応となっていました。なお、胆振沖（地球岬沖）では水深 50m 付近から反応がみられました（図 2， 4）。
4. 苫小牧沖（図 1；J 線付近）で行ったトロール調査の結果、水深 100m 付近の海底に張り付いた反応および深度 300m 付近にみられた海底から浮いた反応は、尾叉長 40～45cm のスケトウダラ成魚が主体となっていました（図 5）。成熟状態を調べたところ、どちらも雄は放精後、雌も産卵後または完熟卵（水子）を持った個体の割合が高くなっていました（図 6）。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

漁区番号

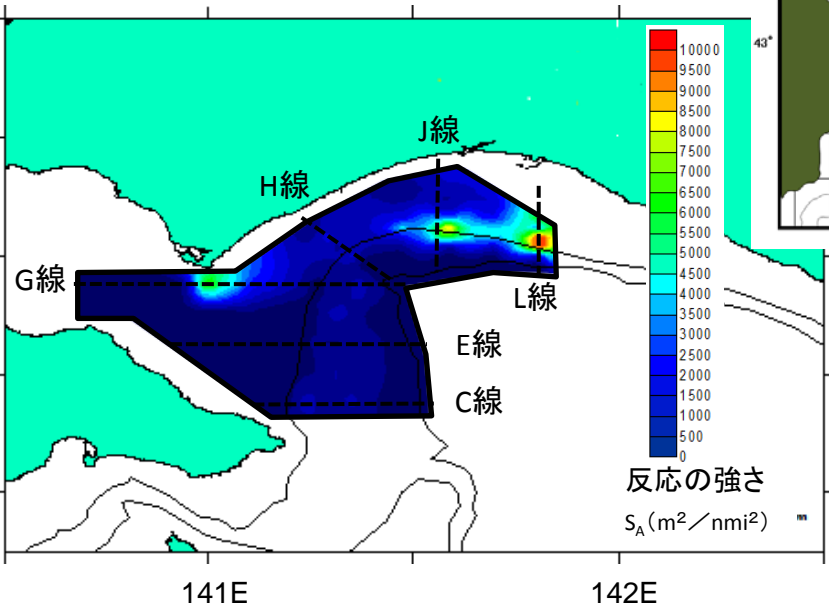
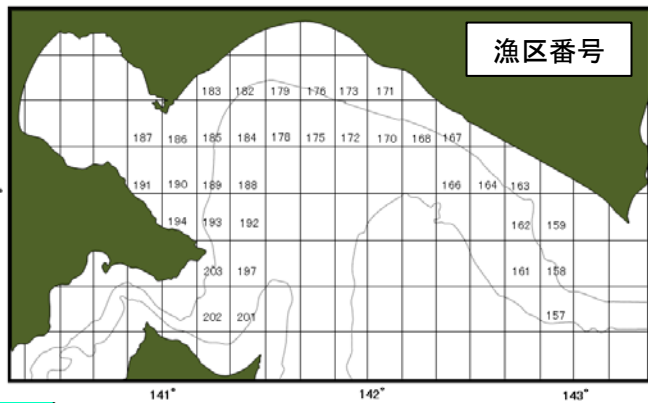


図1 調査海域における魚群の分布

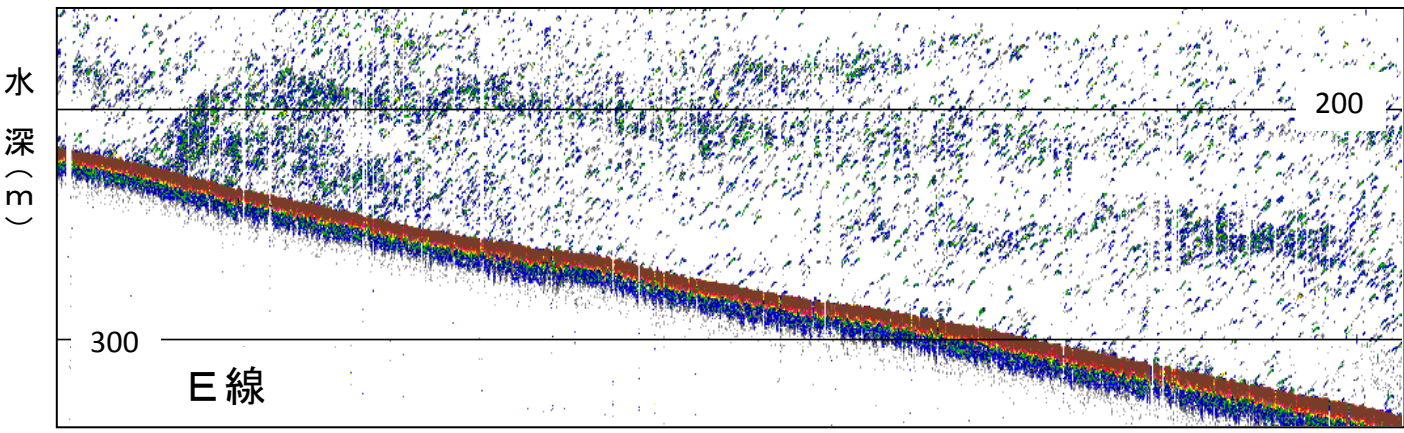
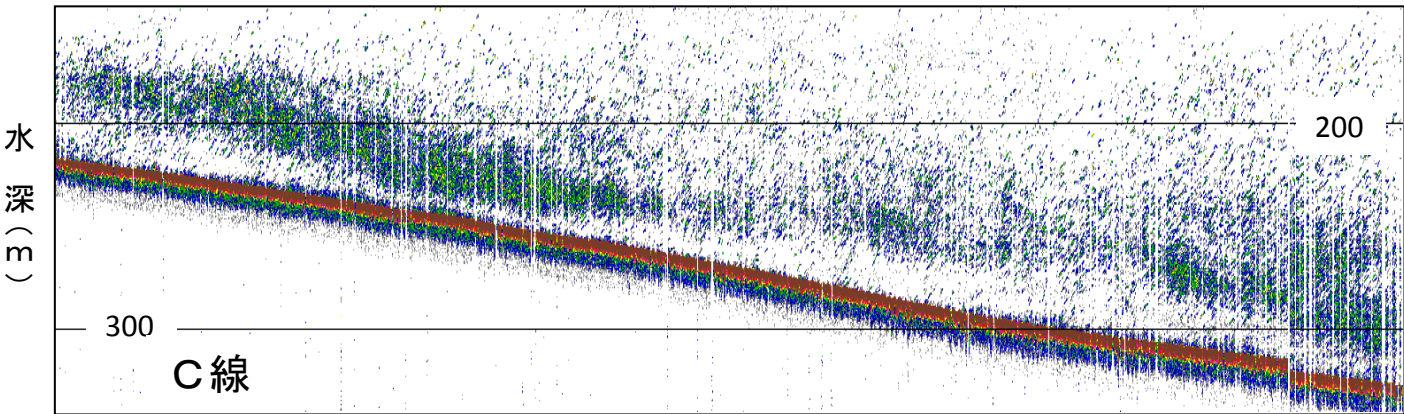


図2 魚群の分布状況(計量魚探画像)

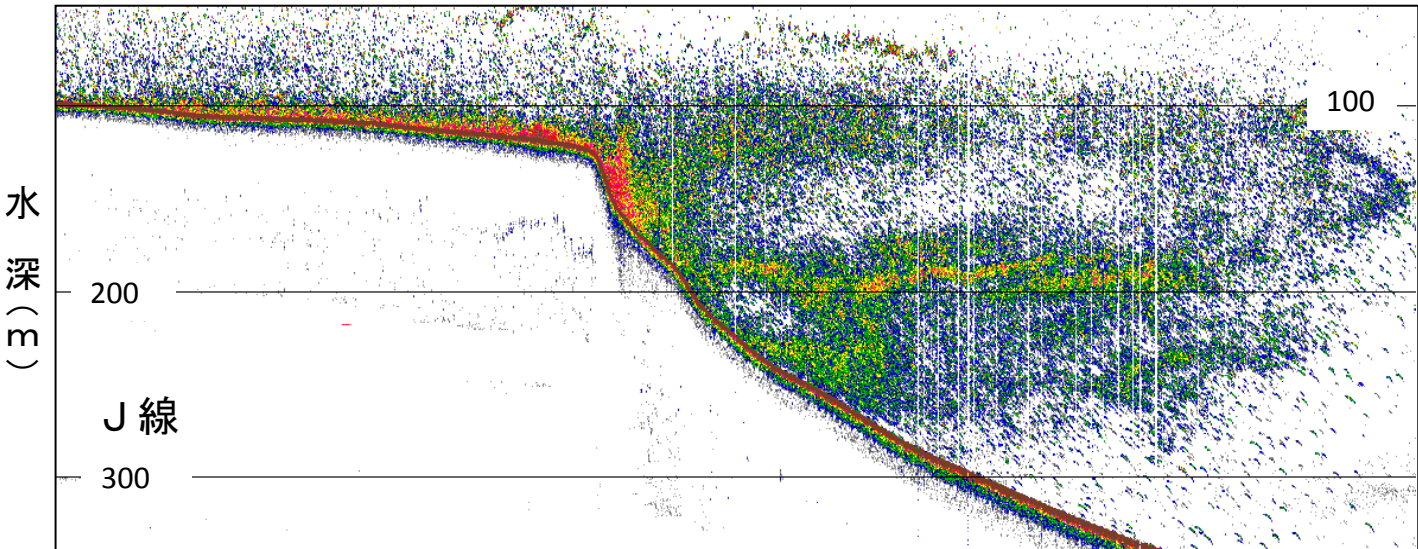
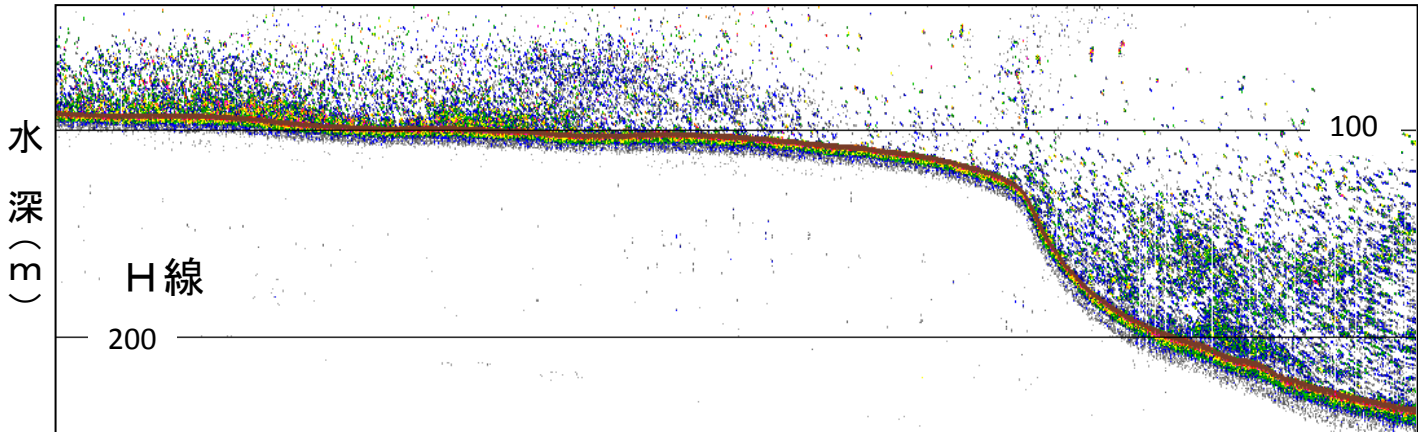
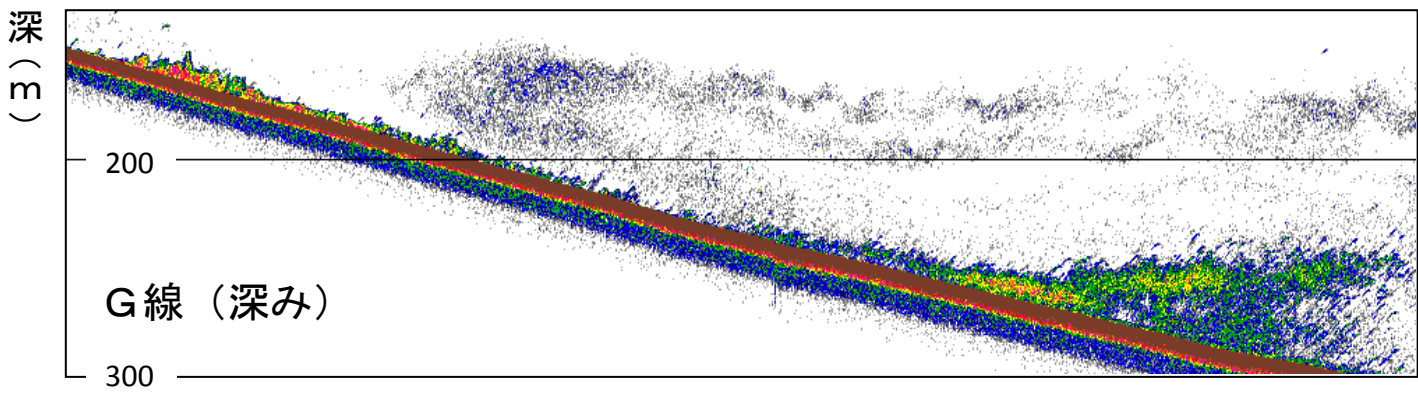
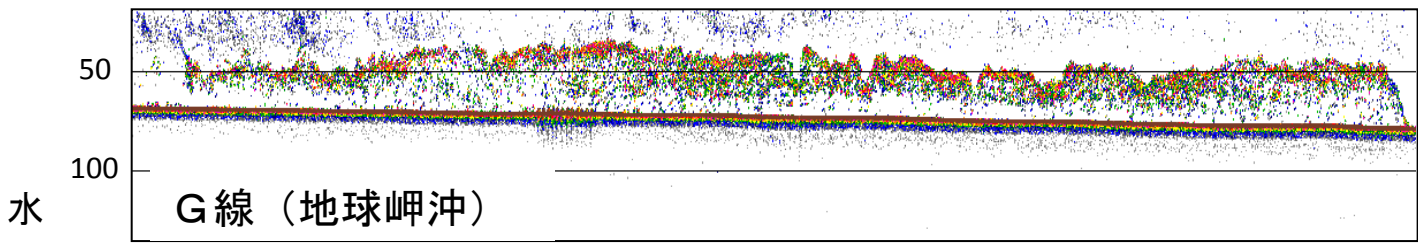


図2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

水深 (m)

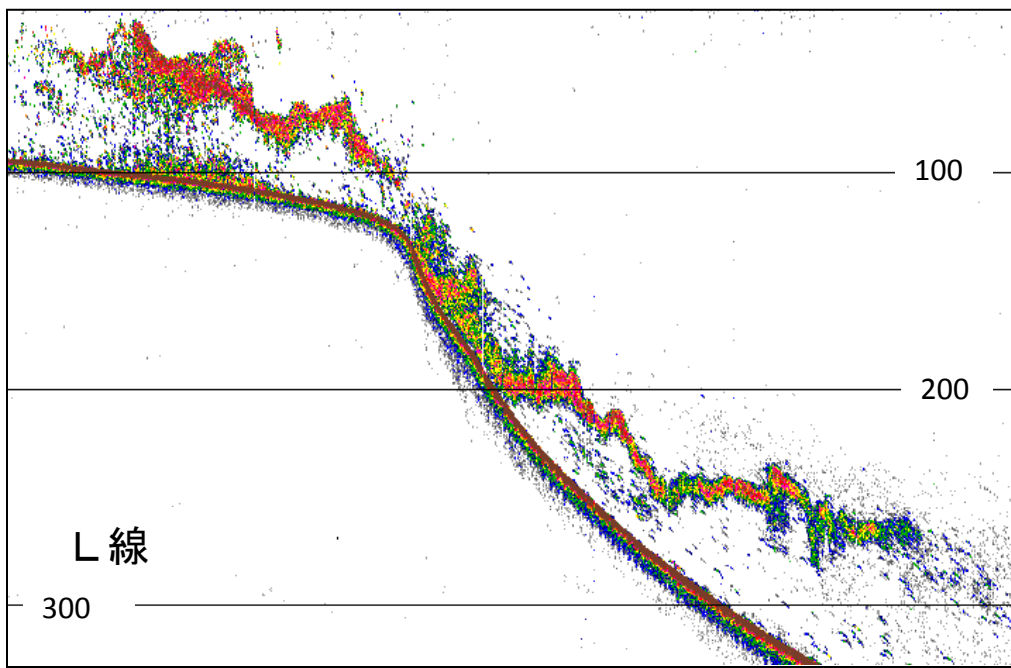


図2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

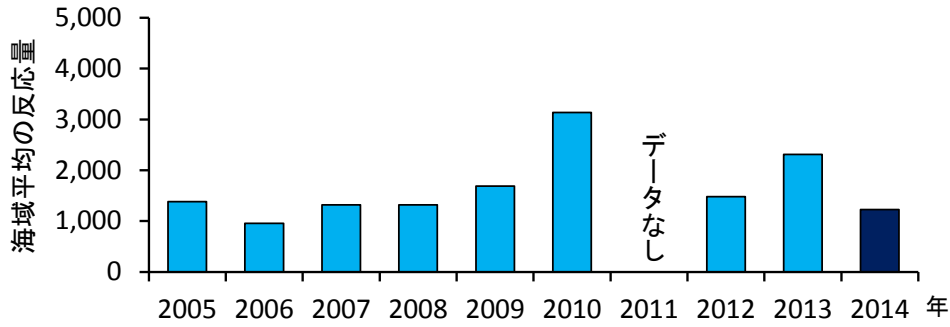


図3 海城平均の魚探反応量(S_A)の推移

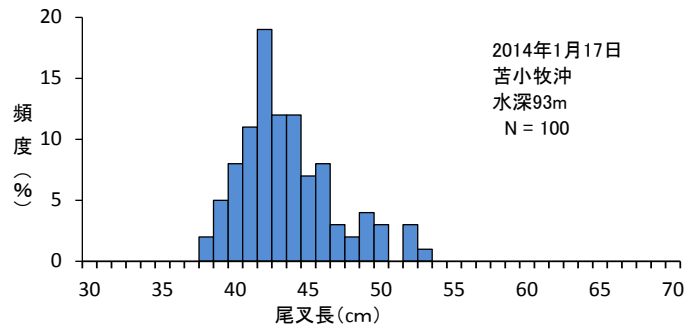
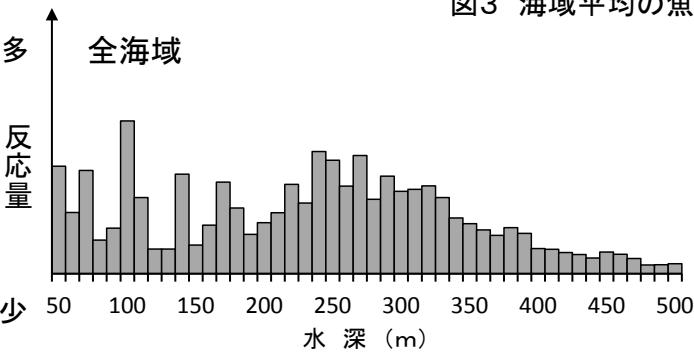


図4 水深別の魚探反応量

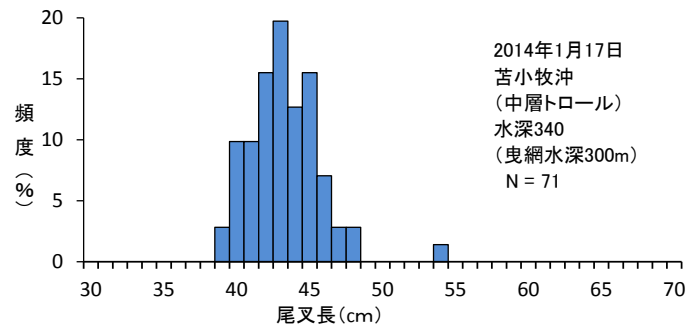
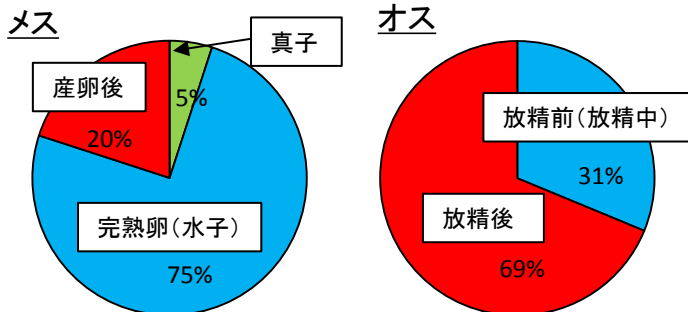


図6 漁獲物の成熟状態(苦小牧沖水深93m漁獲物)

図5 漁獲物の体長組成